

活 動 報 告

共同研究グループ活動報告（2020年度）	170
講演会要旨	177
購入文献解題	178
所員自著紹介	182

共同研究グループ活動報告（2020年度）

日中関係史

2020年1月からのコロナ禍の影響で正常な研究会活動を展開することができなかつたが、5月からはzoom会議を導入し、合計7回の例会を開催することができた。例会の記録はすべて<http://chineseovers.jugem.jp/>に掲載している。以下、本年度に開催した研究会活動を箇条書きで記す。

(1) 2020年5月、第72回例会

◎日時：2020年5月23日（土曜）

◎場所：zoom会議

◎内容：

1 書評：周一川『近代中国人日本留学の社会史』を読む——孫安石（神奈川大学）、見城悌治（千葉大学）

2 研究会の運営報告、拡大会議zoom開催

(2) 2020年7月、第73回例会

◎日時：2020年7月4日（土曜）

◎場所：zoom会議

◎内容：

1 「実藤恵秀の中国研究を再考する——日中戦争前後を中心に」ウイクトリア（東京大学大学院、修士課程）

2 「湖北省留日学生の留学経験とその影響」王鼎（新潟大学大学院、博士課程）

(3) 2020年7月、第74回例会

◎日時：2020年7月25日（土曜）

◎場所：zoom会議

◎内容：司会——王雪萍（東洋大学）

1 「中華人民共和国建国後の留学生選抜」李昱（九州工業大学教養教育院准教授）

2 「中国留学研究に関する一考察」張泓明（山西大学歴史文化学院講師）

(4) 2020年8月、第75回例会

◎日時：2020年8月22日（土曜）

◎場所：zoom会議

◎内容：

1 「1930～40年代における喇嘛僧の日本留学と日本佛教界」池田健雄（千葉大学、特別研究員）

2 「清末の旗人留日学生について——『大同報』を中心に」阿部由美子（二松学舎大学、非常勤講師）

(5) 2020年9月、第76回例会

◎日時：2020年9月26日（土曜）

◎場所：zoom会議

◎内容：

1 「近代中国におけるサイエンスとデモクラシーとミリタリズム」小野寺史郎（埼玉大学）

- 2 「『軍国民』と近代中国のナショナリズム」李曉東（島根県立大学）
(6) 2020年10月, 第77回例会
◎日時：2020年10月24日（土曜）
◎場所：zoom会議
◎内容：著者に聞く——汪婉（北京大学）『清末中国対日教育視察の研究』（汲古書院, 1998年）
(7) 2020年11月, 第78回例会
◎日時：2020年11月21日（土曜）
◎場所：zoom会議
◎内容：著者に聞く——熊本史雄（駒沢大学）『近代日本の外交史料を読む』（ミネルバ書房, 2020年）
(文責 孫安石)

色彩と文化IV

本研究は、2020～2022年度の学内共同研究奨励助成金を獲得し、「多文化共生社会の言語景観——観光立国日本の多言語表示と情報発信を再考する——」という研究課題をうちたて（代表者：鈴木幸子、メンバー9人）、「言語景観」に観察と考察の軸足をおきながら、「観光」と「外国语教育」に応用可能な知見を得るべく研究活動をおこなっている。2020年度は二度にわたる緊急事態宣言の影響を受け、本研究に不可欠な実地調査がほとんどできなかつたため、研究計画の大幅な変更を余儀なくされた。そこで、メンバーの間で定期的にオンライン研究会を開催し、情報共有や学術交流を図りつつ、今後予定される現地調査にそなえることにした。

1 研究会の開催

(1) 第1回研究会

開催日：7月31日（金）20:00～23:00

会 場：Zoom

発表者：尹亭仁（本学国際日本学部教員）

テーマ：言語景観研究の現状と研究会の方向性についての意見交換

(2) 第2回研究会

開催日：8月31日（月）20:00～23:00

会 場：Zoom

発表者：尹亭仁（本学国際日本学部教員）

テーマ：言語景観と授業での活用——現状と課題——

(3) 第3回研究会

開催日：9月30日（月）20:00～23:00

会 場：Zoom

発表者：鈴木幸子（本学国際日本学部教員）

テーマ：「観光地における言語対応——まちなかの取り組み——（『観光言語を考える』第2章）」を中心とした分析と考察

(4) 第4回研究会

開催日：10月30日（金）20:00～23:00

会 場：Zoom

発表者1：鈴木慶夏（本学外国语学部教員）

テーマ1：北海道の言語景観から問題提起——表記方法の側面から——

発表者 2：佐藤裕美（本学外国語学部教員）

テーマ 2：外国人旅行者が必要とする言語情報——鎌倉の場合——

(5) 第 5 回研究会

開催日：11月 30 日（月）20：00～22：30

会 場：Zoom

テーマ：鎌倉・藤沢の観光と外国語

発表者（ゲスト発表）：由川美音（本学外国語学部教員）

(6) 第 6 回研究会

開催日：12月 28 日（月）20：00～22：30

会 場：Zoom

発表者 1：鈴木幸子（本学国際日本学部教員）

テーマ 1：異文化コミュニケーション学会の参加報告

発表者 2：高木南欧子（本学国際日本学部教員）・佐藤梓（本学経営学部教員）

テーマ 2：キャンパスにおける留学生の言語景観

発表者 3：尹亭仁（本学国際日本学部教員）

テーマ 3：「観光とことば」に関する論文の紹介

(7) 第 7 回研究会

開催日：1月 29 日（金）17：00～19：30

会 場：Zoom

テーマ：言語景観・観光関連の参考文献の紹介とデータベース化に向けての意見交換

(8) 第 8 回研究会

開催日：2021 年 2 月 26 日（金）17：00～20：00

会 場：Zoom

発表者：李忠均（本学国際日本学部教員）

テーマ：未定

(9) 第 9 回研究会（予定）

開催日：2021 年 3 月 29 （月）17：00～20：00

会 場：Zoom

発表者：小林潔（本学国際日本学部教員）

テーマ：未定

2 海外調査

なし

3 国内調査

(1) 尹亭仁：2020 年 9 月 17 日～9 月 19 日

[福岡・熊本の言語景観の調査]

(2) 尹亭仁：2020 年 11 月 5 日～7 日

[富山の言語景観の調査]

(3) 李忠均：2021 年 3 月 3 日～6 日（予定）

[京都・奈良の言語景観の調査]

4 講演会の開催

開催日：11月 3 日（祝・火）17：10～18：50

会 場：Zoom

演題：「モルディブの観光と言語景観」

講演者：河野夏美（本学卒業生、元JALスカイグラウンド・スタッフ、Maldives Travel Factory
ツアーオペレーター）

5 参考文献のリストアップと整序

学内共同研究助成による活動の一環として、言語景観・観光関連資料のデータベース化のため、諸資料のリストアップと整序にも注力している。

（文責 鈴木慶夏）

言語変異研究

1. 研究内容：今年度は主に歴史社会言語学の視点から中国語標準化の実態と政策に関する資料調査と分析を行った。論文の執筆は、歴史的言語景観に関するものと言語景観に関するものを中心に行った。

2. 今年度の主な研究成果：

「近代上海言語景観の生態言語学的類型」の論文執筆完成（『人文研究』（203号）2021年9月刊行予定）

3. 今年度主な研究所所蔵資料の収集：

『宋画全集・第8卷』浙江大学 2014年

『清画全集・第8卷』浙江大学 2019年

『旬刊美術新報・第1~6卷』飯野正仁・東京文化財研究所 2017年

『中華大藏經』（続編7~18）中華書局 2019

4. 2021年度は主に引き続き歴史社会語用論と歴史言語景観について研究調査を実施する予定である。

（文責 彭国躍）

〈身体〉とジェンダー

1. 講演会・研究会の開催

• 第1回研究会

開催日：2020年9月24日（木）

会場：オンライン

新メンバーに自身の研究を簡単に紹介してもらいながら、昨年度出版した『男性性を可視化する——〈男らしさ〉の表象分析』に続く叢書のテーマを検討し、それに沿った研究発表計画をたてた。

• 第2回研究会

開催日：2021年1月22日（金）

会場：オンライン

発表者（所属）：

鈴木宏枝（外国語学部・英語英文学科）

「『ハリー・ポッター』シリーズにおける母性——メローピー・ゴーントとリリー・ポッター」

秋山珠子（外国語学部・中国語学科）

「童話vs ウィルス——章夢奇（ジャン・モンチー）：河北省“47 km村”的定点観測」

2. シンポジウムの開催 なし

3. 活動内容

〈身体〉とジェンダー研究会は『男性性を可視化する——〈男らしさ〉の表象分析』を2019年度に出版したが、その後に続く企画として、男性表象をテーマにした叢書の出版を目指して研究会を組織している。今年度については第1回研究会では、学内・学外から多くの新メンバーを集め、「種」や「動物」、「Covid-19」などといった新しいテーマを模索しながら、研究発表を重ねていくことを決定した。第2回研究会では、新メンバーである鈴木宏枝先生に、世界中で読まれる現代児童文学『ハリー・ポッター』における母性というテーマで、主題にあげられることが少ない二人の登場人物に注目するという発表を行ってもらった。また秋山珠子先生には、中国のインデペンデント映像作品を紹介してもらい、2020年に世界を席巻した新型コロナウイルスと寓話の関係、子どもの想像、ファンタジーといったテーマを考察してもらった。多数の研究者が参加し、研究会は大いに盛り上がった。また、今後ジェンダー表象を分析する上でのヒントを多数得ることができた。

(文責 熊谷謙介)

自然観の東西比較

本年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、研究会を開くことができず、共同研究としては休止状態であった。

ヒト身体の文化的起源

活動報告：新型コロナウイルス感染症の影響により、研究テーマに関連した講演会と調査を実施することができなかった。

NCH 新聞研究会

本研究会は、神奈川大学図書館が所蔵するNCH（North China Herald）新聞（ONLINE版）の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関する新聞記事の研究を目指している。2020年はコロナ禍の影響で研究会を開催することはできなかつたが、同資料の利用と紹介を兼ねて、孫安石「근현대 상해 도시계획 변천의 역사—최신연구성과와 자료를 중심으로」（韓国、『比較中国研究』、2020年1月、仁川大学中国学術院）、孫安石「상해 연구의 뜻다한 이야기들—「極東올림픽 대회」와 「상해 국제경보 대회」」（韓国、釜慶大学、인문한국 플러스사업단、NewLetters『등대지기』10호）の2本の論考を発表することができた。2021年度からは、しばらくの間活動を休止する。

(文責 孫安石)

日中韓対照言語研究

「日韓対照言語研究」は「日韓両言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究」を課題として掲げ、研究活動をすすめてきた。2020年度からはすそ野を広げて中国語を加えた形で、「日中韓対照言語研究」を本格的に稼働することにした。

研究会の開催

(1) 日時：2021年2月25日（木）15:00～17:00（予定）

場所：Zoom

発表者：鈴木慶夏（本学中国語学科教員）

テーマ：並列型名詞句の多様性についての中日対照

(2) 日時：2021年3月25日（木）15:00～17:00（予定）

場所：Zoom

発表者：尹亭仁（本学国際文化交流学科教員）

テーマ：韓国語の漢語動詞をどう教えるか—日本語から手がかりを求めて

年2回以上の研究会の開催を計画している。来年度は対面での発表が厳しい場合は遠隔での実施も視野に入れ、活性化を試みている。対照言語研究の観点から日中韓のみならず英語のテンス・アスペクトの研究者にも参加を呼びかける予定である。また海外の研究者にも参加と発表の機会を提案したい。

（文責 尹亭仁）

各国近代文学の研究

1. 講演会・研究会の開催

第1回研究会

開催日：2020年7月18日

会 場：ZOOM 開催

全メンバーによる意見交換会

第2回研究会（研究報告）

開催日：2021年1月31日

会 場：ZOOM 開催

講演者：マヌエル・アスアヘ・アラモ氏（神奈川大学非常勤講師）

演 題：20世紀後半のラテンアメリカ文学者による、日本古典文学の翻訳とその時代背景

2. 活動内容

本研究グループは、活動4年目である。研究対象の時期的な重なりを基軸に据えながらも、研究をめぐる方法や環境・場の異なりについて相互に意識し、意見交換をしながら、領域横断的な近代文学研究の方向性を模索していく。今年度は、新メンバーを迎えての意見交換会を行い、研究報告会も予定している。さまざまな専門領域、方法論を携えたメンバーによって、それぞれの立場から質疑・意見交換を行い、お互いの知見を深めた。（第2回研究会については、次年度報告予定）

（文責 松本和也）

知覚認知システムの普遍性と多様性

講演会・研究会の開催：なし

シンポジウムの開催：なし

活動内容：

本研究グループは、人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目標としており、特に、知覚的様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通じて明らかにする活動を行うために共同で取り組んでいる。

本年度は、新型コロナウィルス感染防止の観点から、活動ができなかった。昨年度開催したシンポジウムも企画していたが、講演者を呼ぶことができず、中止した。

（文責 吉澤達也）

学びの見える化研究会

1. 研究会の開催（オンライン実施）

○研究会メンバー：

齊藤ゆか（神奈川大学教授）

森和夫（株式会社 技術・技能教育研究所）

西村美東士（若者文化研究所、聖徳大学非常勤講師）

ほか数名の参加

○開催日：

月2回、土曜日9時～14時ごろ 全19回

（2020年5月9, 16日, 6月13, 20日, 7月11, 25日, 8月1日, 9月5, 19日, 10月3, 17日, 11月7, 21日, 12月5, 19日, 2021年1月9日, 23日, 2月6日, 20日以上（予定含む））

2. 活動内容（テーマ・研究成果）

齊藤ゆか（2020）「市民性と地域参画力を育てるサービス・ラーニングの可能性と評価——『市民大学』における実践から——」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』35(2)39-50

齊藤ゆか（2020）「地域人材を生かすソーシャルビジネス——人材育成・活用と組織活性化の視点——」『都市とガバナンス』Vol.34 27-35 2020年10月

森和夫（2020）『実践現場の能力管理——生産性を向上する人材育成マネジメント——』日科技連出版社

西村美東士（2020）『わが国の青少年教育及び青少年問題：文献資料集』

大妻女子大学人間生活文化研究所 eBOOK

（文責 齊藤ゆか）

芸術（アート）と物語の交雑／発信力

活動内容

本研究グループは、2020年秋に結成したもので、本格的な活動は次年度以降からとなる見通しである。今年度中の活動としては、1度、メンバー間の興味関心を共有するための研究会を催す予定である。

活動内容としては、広義の芸術（アート）について、物語との交雫を視野に入れて、調査・研究を行っていく予定である。ここで対象となるのは、近世の浮世絵をはじめとした図像、近代における西洋美術移入、現代におけるポップ・ミュージック、舞台芸術を中心としたパフォーマンス、現代美術等々、文字通り「広義」の「芸術（アート）」であり、本グループでは、その境域を問しながら、それらがさまざまな物語とどのように交雫し、そこからどのような意味（作用）が生じ、発信力となっていくのかについて、研究を深めて行きたい。

（文責 松本和也）